



Weekly News

龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2012.06.22

No.00707

R I District 2820 CLUB 50504

会 長：城出鴻二郎

幹 事：横澤啓二

連絡先：TEL 0297-66-3258 FAX 0297-66-3280 <http://rcrc.web5.jp>

事務所：〒301-0032 茨城県龍ヶ崎市松葉 5-12-6

例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



本日のプログラム

【通常例会 06.22】
クラブ協議会③
次年度執行部

次のプログラム

【通常例会 06.29】
クラブ協議会⑥
タスキ引き継ぎ

6月の主な行事：ロータリー親睦活動月間

第 706 回例会報告

点 鐘：城出鴻二郎会長
ロータリーソング：それでこそロータリー
ゲ ス ト：なし
ビ ジ タ ー：なし

会長報告：城出鴻二郎



■来週は 3 回目のクラブ協議会です、宜しく資料等お願いいたします。また、最終例会は今年度の最後のクラブ協議会です、事業報告資料を宜しくお願いいたします。

■本日は、職業奉仕に関してクラブフォーラムをいたしますので、ご協力をお願いいたします。

■職業奉仕関連のお話を少し前置きいたします。

先週のクラブ協議会で次年度野プログラムとして会員卓話に監視会員それぞれにテーマを決めてお話しを頂く企画がありましたが、確定はしていませんが、私は何か決議 92-286 がテーマになっていたとか、与えられていたようですが、我々のクラブ創立前のお話で、直接の体感はありませんが、記憶を確認しましたところ、いまでもインターネットに私の発信情報が残ってまして、2003.8.19 の DICO-252 号 Mail でこの顛末を配信しています。相当の意識を持って配信しましたが、地区内の反応はゼロでした。詳しくは次年度でお話しいたします。

いよいよ、次年度の計画が始まります、本日はクラブ協議会です、宜しくお願いいたします。

幹事報告：横澤啓二

■次年度関連の資料が来ています、今年度で対応するものもありますが、次年度会長幹事さんと協議いたしましょう。社会福祉協議会の事業内容になります。6月27日に会議が予定されています。

■理事会報告



1. 今年度会員調整・クラブの現状に合わせて調整を行なう。
2. 5名の会員手続きを行なう。
3. クラブの次年度委員会組織の変更に伴って細則の文言を調整する。
4. 細則の変更等クラブ例会手続きは 6 月最終例会で行なう。

本日のプログラム

■ロータリーにおける職業奉仕について「その成立時期風景と現代風景の乖離とその理解修正点」

事の発端は 2012 年 5 月発行の「ロータリーの友」掲載座談会にあり、良い機会としてロータリー職業奉仕の判り方を再検討してみたいと考えたところにあります。

今年度の終わりにあたり、せめて 1 回でもロータリーの難しい部分の論議を深めておくことも私にとって意味があると思ひ、クラブフォーラムとして皆さんと考えたいと思ひます。

古来、最も古来を何時から何時までとするかによりますが、創立答辞の目的が 1 年もしないうちに変化し始め、カーターの入会から 1907 年のトイレ設置活動も含め 1908 年にはシェルドンの入会、1910 年には職業分類制度も出来、1911 年の綱領宣言からその後の連合会を経て職業奉仕の概念が形作られた時代の揺籃期以降、1918 年の Ideal of Service、1922 年の RI に至る名称改称をへて 1923 年ごろまでをいいたいと思ひます。

ご承知のように決議 23-34 はそのご 1927 年の 4 大奉仕に至りますから、このあたりでの綱領に形を整えたロータリーでは職業イコール有用な業務としてロータリー活動の組織形成の根本として会員の目的

意識を形成してきました。綱領に曰く、その本文に有益な事業の基礎として奉仕云々とありますように、有益な事業を概念的に全ての活動を事業として定義しており、その事業を行なうに当たり、会員は1から4の事業マナーを提唱しています。まずは広くコミュニケーションをはかること、そして職業を事業・専門職務の倫理向上、事業は・職業は有用なものを優先しており、有用ゆえに尊重されるべきであって、会員それぞれがこの理念と言うかごく当たり前の原則をよく認識することを求めています。当然その事業、業務、奉仕にあっても品位品格の高さを求めています。そしてこの様な考えは事業のみならず、個人的、社会的にも事業上と同様の考え方にたつことを求めています。また、この考え方はロータリアンの近隣周辺に限らず地球規模でその実践を求め、当然国境を越えるが故の諸問題、阻害要因も国際間の平和と親善を持って成し遂げることをうたっています。と言うように私は理解しており、この様な内容に至るのには1962年ごろまでかかったと認識しています。この間色々なことがありましたが、道徳律とその廃止過程、4つのテストもそうですし、1950年には2つの標語も確定しました。総じて決議23-34を前提に肯定的に職業奉仕にプラスしての社会奉仕や一定の場合にあっては団体奉仕も然りと言うことで推移してきました。社会奉仕の実践も必要と言うのは流れの中で必然的でしたが、財団の発足は1917でしたが、1962年のWCSの発足によって財団プログラムの増加による資金需要の必要から、RIのイニシアティブによるクラブの従属化が顕在し始めたと思います。決定的なことは1978年の3Hプログラムの提唱がとどめに成ったようで、それ以降、1980年以降は完全にそれ以前のロータリーの理念が変革したと言っても良いと思います。

と言うような1つの解釈に立てば、原則的な職業奉仕の在り様は、定まるわけで、職業の後に奉仕が付こうが付くまいが関係なく基本的なロータリーでの考え方は一貫するものと思います。もっとも、それでも良く理解できないとして、当時は4つのテストを定めてみたりもしていますが、元々の目的がごく自然な倫理感情にあることから、宗教を持ち出すまでも無く、ごく当たり前の考え方といえます。4つのテストにあっては宗教人種を持ち出して説明していますが、その必要はまったくありません。少なくとも綱領の第2項を素直に読めばそのままの話で、何も解釈を加えるべき難しさは無いのではと思います。因みに倫理とはどういうことでしょうか。商況的な倫理観もありますが、宗教によらない人間としての倫理と言うものがあるのでしょうか。道徳がそれにあたりますが、元々は哲学の3大論の1つで論理学、美学と倫理学になります。人倫にも劣る

などといいますが、では人倫とは如何なる概念か、孟子の言葉と言うことですが、私は孟子も孔子も存じ上げませんが、それほど見聞が無くてもおよそ倫理観は何とか認識できるのではと思います。また、世界中の国の人々も宗教に寄らなくても人の道と言うようなことは万国共通ではと思います。

この様な観点に立って友の座談会を読みますと、冒頭の一言がいけません、いずれも一家言お持ちの皆さん・・・私の解釈からは一家言のうちには入らない平易な文章でしかありませんから、そのあたりから多くのロータリアンが勘違いをしているのではと思います。要するに講釈するほどの名言ではなく、ごく当たり前のことなのではと思います。元々の綱領の成立では宗教が介在していますし、過度のかかわりが問題になって道徳律がなくなったことから、人間なら誰でも、清く正しく美しくを原則とすることを求めているに過ぎないと思います。ことさら理論武装や構成を打ち立てる必要は無いのです。

曰く、「**職業奉仕は、各人が、その職業上において最良の奉仕をすること**」私の解釈からはそれで全てが表現されたとはいえませんから、単に中途半端と言うことになります。

曰く、「**ロータリアンとして、一人ひとりが核になって、その研鑽の結果を広めていくという責任があります。**」この文章だけでは意味が定まりませんから、その前後を読みますと、職業人としてのロータリー的な職業の心構えを研鑽を積むことに求めているようですから、このあたりに解釈論とその会社に沿うための具体的な手法を表現しているようです。理屈はわかっている人間なかなかそうは出来ないから、理想の考え方に近づけるように自己研鑽をするのですよと言うことになっています。因みにこのことをお話になった諏訪パストガバナーは第2710地区山口、広島区域の2007-8年度のガバナーで、当時の月信では年表的なロータリーの歴史トピックスをお話になっています。少し脱線しますが、先週のクラブ協議会で話題になりました、次年度の会員プログラムに関わりますので、少しお話しいたします。「ゴール無きロータリーの行方」年表的考察として寄稿されています。その中に次年度予定の可能性がありますが、決議23-34に連なるといふか道徳律にも関わって職業奉仕宣言、そして決議92-286による社会奉仕に関する声明も含め概略歴史を簡潔に説明されています。特に1970年代以降のRIの変化をプログラムに沿って説明していて、非常にわかりやすいと思います。以上蛇足でした。

曰く、「**自分たちだけが儲かる、という考えではなくて、「シェアをする」と言うことが企業においても大切だと思います。**」この文章もそれらしく聞け

ますが、どうもシステムとして職業倫理をルール化しなければまずいというように響きます。テクニカルな手法では CSR や ISO26000 も書かれていますが、今の企業人はルールを制定しないと自己規律できないのか、自分は出来ても他の企業人に枠をはめられないから、ルールを作って秩序維持を図るのか、このあたりの考え方も本来のロータリーではなじみにくい気がいたします。

でも、この発言の足立パストガバナーはクラブにおいて諏訪パストガバナーと同様に決議 23-34 から決議 92-286 の声明に至る経緯についてしっかりとお話をされています。

曰く、「ロータリーの奉仕の理念に精進していれば、profit(食い扶持)はあとから付いてくるというのがロータリーの真髄だと思えます。」どうしても、職業・事業の推進に一定の事故規律を持たなければロータリーの職業奉仕にならないというか、事業の利益とロータリーの奉仕は背反すると言う視点からは脱却的出来ないようで、どうしても無理に調和を図ってしまうようです。事業場で利益の調整をする、或いは利益が元々適性なら調整の必要はありませんし、無理な利益を引き出す事業はいまどき成立しませんから、このあたりも昔と違うところではと思います。

文書の中には仔細に見ますと肯定しきれない点も多くあって、その理解度を批評することに意味があるのかどうか、単なる読み物程度ではと思います。と言うより、100 年前の産業構造、経済構造は現在のような複雑さと相互に影響する国別の影響範囲と地球規模の影響範囲では比べるべきも無く、原則的な理解、解釈論より、時代の違いを精査することのほうがよほど重要かと思えます。ロータリーの金看板が職業奉仕なら尚のこと、100 年の間の経済システム、産業構造の違いをどのように調整するのが最重要であると思えます。そしてその調整が出来なければロータリーの唯一の金看板もそろそろメッキが剥げ初めて久しいといわなければ成りません。

因みにロータリーの綱領は私自身は 100 年の時代の変遷をもってしても普遍的であることには変わりはありません。と言うよりそれほど素朴と言うか、ごく自然な人間的な在り様だからと思っているからにほかなりません。難しく職業奉仕だの、ロータリーの職業は云々と言うからおかしくなり、時代の変遷にあわせて解釈する必要が出るのです。

綱領には産業構造、経済状況の変化に影響を受ける条件は存在していませんから、しかし、職業と言うより事業のあり方、存在条件はこの数 10 年で波乱万丈にありますから、それを職業奉仕の説明に用いると収拾が着かなくなります。

たとえば産業の空洞化は誰の責任でしょうか、これ

1 つ取ってみてもロータリアン企業の責任は免れません。全ての企業経営者がロータリアンとは限りませんが、一方では国連の影の主役と言うような物言いをしているロータリーでは責任の一端は無いとは言えません。空洞化・国内産業の現象、就職機会の減少、雇用の確保、低賃金国にシフト、どれ 1 つとしてロータリーの綱領にはついていけません。

ロータリーの発祥がアメリカと言うこともありますが、発生条件として資本主義国が原則ですから、経済競争が付きまといます。従って競争原理が優れた製品を安価に供給する程度の時代はロータリー的に成立していたのですが、現在はまったく成立しません。日本企業は今やミャンマーにこぞって進出、もうベトナムは満杯とか、中国内陸部もアウト、中小企業ですら国内立地は難しくなりつつあり、中小以下の企業人なら何とかロータリーの綱領についていけるかどうかでしょうか。日本のロータリーは大企業中心に成立し、地方に至って地方の旦那衆がメンバーで成立し、その成立要件で専門職業、個人的な職業なら今でも成立しますが、大きくなればなるほどロータリーの理念どおりの活動は出来なくなりつつあります。それでもやれるのは、ロータリーの理念をどこかに飾っておくことで成立しているのでしょうか。

今回の座談会の司会者は安平パストガバナーと仰いますが、姫路 RC 会員で、地区では職業奉仕の講演もなさっておられまして、88 ページの報告書もございます。深川純一パストガバナーの影響もございます。当然、地域柄田中毅パストガバナーの影響もあるようですが、相当職業奉仕については盛んな地区ではあります。皆さんそれぞれに講演集を出されています。

結果的に申しますと、職業奉仕で有ろうが無かろうがロータリーは会員の職業を基本にその社交的な集まりで相互に全ての場面で啓発する組織と言うことではないでしょうか。そしてそれが他の組織とまったく違うところ、特質なのだということです。この特質が現代社会に優位なのかどうか問われているのであって、世界中に存在するボランティア組織は職業のありようなど知ったことではないのですから、気楽に自分たちのやりたいこと、を、精一杯活動しているということで、この気楽さがロータリーの職業奉仕の基本とあわないことから敬遠される、或いは難しく理屈優先になっていることから敬遠されているのでしょう。単に奉仕活動をするならロータリーの理念は関係なく出来ますし、必要以上の経費をかける必然性はありません。ロータリーがロータリーとして活動するにはもっと簡単なわかりやすい優位性を説明する必要があります。若しそれが職業奉仕であっても、簡単明瞭にそのルールを理解し

てもらわなければいけません。
同時にロータリー100年の制度疲労を調整しなければますます取り残されることとなります。制度疲労なのか、普遍的なるが故に外的要因の変化についていけないだけなのか、精査する必要があります。そういう意味では奉仕の実践の意味合いも含めて再検討しなければなりません。時代は変わりその力や影響力が変化した今、新しいロータリーの形を整理整頓する必要があります。

参考数値

国民の生活水準意識

1958年当時から比べると中下流意識が86%そして現在は86%変わりません。しかし、中量と下流はまったく逆転しています。1992年以降上流意識が10%を超えて今も続いています。

生活満足度は

1970以降まったく変わらず、64%前後で推移していますが、1995年がピークで72%ありました。

消費構造では顕著な違いがありまして、

1955年ごろは食費に44.5%支出しており、現在は21.5%になっています。衣食足りて礼節を知るのとおり当時は衣類に12.2%かかっており、現在は4.3%でユニクロのおかげでしょうか。住居や保険医療は大して変わらずせいぜい2倍程度で、5.6が10.2%になりました。劇的な変化は通信交通で1.9が15.1%に激増しています。教育教養娯楽には8.9が16.5%に増えました。この違いとロータリーの関わりを検討する必要があります。

耐久消費財では、私が小学校5年の時冷蔵庫は上段に氷1貫目を入れていました。2.8%の普及率で洗濯機はありましたが、20%程度でした。今は98-99%になります。当然エアコン、テレビ、車全ては普及済みで、比較になりません。

1980年ごろを境に、車社会に入り、戦後世代が壮年期に至る過程で、大きく世界は変身しました。このあたりから、日本の経済力が世界一となり、アメリカと共に国際経済の牽引役として活躍し始めていますが、明らかにその後の20年で情報伝達のスピードがロータリーの活動において模索、検討、企画、実施に至る過程が着いていけなくなっています。現に職業形体も事業主と従業員の比率が1980年前後から経営者は半減しています。簡単に言いますと、社長さんは戦後の混乱期でも25%もあったものの、今では9%になっています。

人口も増えていますが、職種の増加を考えれば明らかに減っています。

そして、家族構成は戦後でも4.8人でしたが、今は2.6人です。子供の出生率に至っては1/3以下になっており、日本の国力は確実に衰退しています。単に少子高齢化社会といいますが、もっと簡単に言え

ば国力の衰退以外ありません。終戦直後の5年間以外日本は確実に出生率が低下しており、何もこの10年程度の話ではないのです。そういう意味では、政府と言うか、日本人自体あまりにも無策と言うか、生きている我々だけが生きている今を楽しんでいたつげが来ているのです。

明らかに1970年代に手を打つべきだったのですが、誰も気にしなかったのか、警世されなかったのか判りません。多分多くの国民は結婚し、子供を生んで子孫を作ることにはしていたと思いますし、誰もそのことで悩んだことが無いと思います。

特に1990年代初頭以降は急激にその傾向が高くなり、今に至っています。情報化社会にあつて、インターネットなどのシステムの利用度に対する認識も管理職と非管理職ではその認識に落差があつて、就職機会、職業上の或いは職場での向上心に大きな違いが見られます。このことは使う者と使われる者の両者に分けされ、所謂アメリカンドリームの出現は皆無と言う状況でもあります。その一方で大学進学は戦後の4倍に達しており、就職と進学のギャップがまったく連動していないことをうかがわせています。

現実には国内産業の空洞化もあつて、求人は激減しており、必ずしも企業は採用を強化している状況にはありませんし、外人雇用の方向にシフトしています。1990年以降大学進学者の数も低迷しているものの、高校就職数も70万人程度減っていて、少子化の顕著な形が反映されています。

一例を挙げての話ですが、このような国内状況とロータリーの在り様がリンクするのか、しないのか、奉仕活等であれ、ロータリーの理念であれ、影響を受けないとするには相当の無理が在ります。今の状況にフィットするロータリーの在り様を再検討しなければ、誠に居心地の悪い社交クラブと言うことに成りそうです。(城出)

出席状況

会 員	20 名	出席率	60.00 %
出 席 者	9 名		
出席免除者	2 名	Make-up	3 名
(定款第9条3節a)	1 名	米島、小林、椎塚会員	

ニコニコボックス (目標額 600,000 円)

本日 3 件 5,000 円 (本年度累計 439,000 円)

荒木会員：今日のゴルファーは幸せです。
海老原会員：明日は雨のようです。
横山会員：会報の紙面作りに乏しい時期です。

**例会の欠席は、水曜日 AM:10:00 までに川上副
SAA TEL 090-3497-0383 に連絡して下さい。**